


平成29年度卓越した技能者「現代の名工」の表彰の被表彰者（福井県関係）

<p>氏名（年齢）</p>	<p>きどぐち たけお 木戸口 武夫 (58歳)</p> 	<p>職種名</p>	<p>研磨用炭製造工</p>
<p>所属名</p>	<p>名田庄総合木炭 〒917-0385 大飯郡おおい町名田庄井上49-20-2</p>		
<p>技能功績の概要</p>	<p>研磨炭は日本の伝統工芸である漆工芸・金属工芸の研磨に不可欠であり、産業界でも広く用いられている。研磨炭には駿河炭・朴炭・呂色炭・椿炭の四種があり、原木・製炭方法・研磨用途は全て異なる。氏は日本で唯一このすべての研磨炭技術を継承し、独自に研究・研鑽を重ねている。平成28年には日本森林学会により、林業遺産に認定された。研磨用炭窯を使用した研修を実施、後継者育成にも努めている。</p>  		
<p>氏名（年齢）</p>	<p>たてまつ えいじ 立松 栄治 (68歳)</p> 	<p>職種名</p>	<p>建築板金工</p>
<p>所属名</p>	<p>有限会社 立松ダクト工業 〒918-8014 福井市花堂中1丁目18-5</p>		
<p>技能功績の概要</p>	<p>五枚～八枚の鉄板を使用し、ピッツバーグハゼ加工を用いた手作業による特殊な排気ダクトを制作できる者は、全国的にも稀有な存在であり、県内では唯一の職人である。この技能により風の流れをスムーズにすることでランニングコストの低減に大きく貢献してきた。現在も第一線で働き、かつ板金高等職業訓練校の校長、建築板金の技能検定委員を務めるなど後継者の指導・育成にも大いに寄与している。</p>  		

氏名（年齢）	はたけなか しょういち 畠中 昭一 （76歳） 	職種名	漆工
所属名	古代匠畠中 〒916-1222 鯖江市河和田町12-43-1		
技能功績の概要	<p>漆器製造業（丸物塗）における漆塗りの技能（本堅地、漆下地、中塗り、上塗り）に卓越しており、特に難しいとされる木地呂塗（透き漆を塗り重ね木目を美しく見せる塗り）や古代朱塗（漆に混ぜる顔料が重いため塗りむらが出やすく難しい）を中心とした製品を多く製造。東京の企業ともコラボレーションして子供向けの食器を製作するなど、漆器のPRに努めるとともに後継者育成にも尽力している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
氏名（年齢）	かさつじ みつお 司辻 光男 （70歳） 	職種名	ろくろ成形工
所属名	光窯 〒916-0273 丹生郡越前町小曾原20-2-2		
技能功績の概要	<p>通常ろくろ成形を一部改良した、熟練した高度な技能と知識を必要とする「虫喰手」と呼ばれる他に類を見ない独創的な手法を考案し、越前焼振興に大きく貢献してきた。また、越前焼の特徴を活かしたコーヒードリッパーなど新商品開発にも積極的に取り組むとともに、若手窯元等を指導し、現代工芸美術や日展に多くの入選者を輩出するなど後継者育成にも積極的に貢献している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

氏名（年齢）	わしだ とみえ 鷺田 富江 （63歳）		職種名	れんが・かわら類 成形工
所属名	北川鬼瓦製作所 〒915-0873 越前市池ノ上町8-5-1			
技能功績の概要	<p>現存する最古の鬼瓦流派「立川流」を正統に受けつぐ全国でも稀な女性技能者（鬼師）であり、従来の鬼瓦の製法に加えて、深い陰影や立体感を持たせた技法を取り入れるとともに、過去の鬼瓦には無かったモチーフの研究を行い、日本画の名作等を鬼瓦で表現するなど熟練の技を発揮している。京都天龍寺や清水寺、茨城正宗寺など国宝・重要文化財指定の神社仏閣の鬼瓦の復元を多数手掛けている。</p>			
氏名（年齢）	はたじ ひさみつ 畑地 久満 （43歳）		職種名	日本料理調理人
所属名	合資会社 開花亭 〒910-0006 福井市中央3丁目9-21			
技能功績の概要	<p>和食の伝統技法を踏襲しつつ、フランス料理の三ツ星シェフらとも協働し、現代人の嗜好にマッチした新たな和食料理を創作する等、卓越した技能を発揮している。また、地元食材の味を向上させるため、生産者とも協働して食材の改良に努め、食材の付加価値向上にも尽力している。さらに、日本料理コンペティション世界大会において準優勝を果たすなど、その技能は海外でも評価されている。この他、地元啓新高等学校調理科の講師を務め、後進の育成・指導にも貢献している。</p>			
				

